

アリザリン・コンプレキソンによる稚魚への大量標識法における鱗からの標識検出法の検討

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 中村, 良成, 柴田, 博
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014428

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アリザリン・コンプレキソンによる稚魚への大量標識法
における鱗からの標識検出法の検討

中村良成・栗田 博

ALC 標識が鱗からも確認可能という土地・今井 (1993) の報告をもとに、鱗の検査による本標識の市場調査レベルでの長期追跡の可能性について検討した。染色後 1~2 年経過した放流ヒラメ 27 個体および同 5~6 年経過した長期飼育マダイ 10 個体より採鱗し、蛍光顕微鏡で確認したところすべての個体で鱗から ALC 標識が検出され、魚体を購入して耳石を摘出しなくとも市場で数枚の初生鱗が入手できれば本標識魚の追跡は可能と判断された。また、ヒラメを主にして採鱗部位、鱗から検出するための標識装着時必要最低サイズ、採鱗枚数等についても検討した。

栽培技研, 23(1), 53-60, 1994